



①SDGsを通して学内活動の取組みを再発見

SDGsへの貢献を目指して九州工業大学の中で行われている各課題の解決につながる様々な取組みについて、大学職員有志がチームを組織してSDGsを学び、ジェンダー教育、人材育成、地域の高校・高専へのSTEM教育、自治体の運営している北九州SDGsクラブや工大女子シンポジウムと連携を行い、学内外に本学の取組みを発信している。近隣の高校や高専、自治体との連携が特徴。



②自治体、地元企業、団体との連携による脱炭素社会の実現に向けた取組み

北九州市を中心に本学を含む市内企業等と、脱炭素に関する連携体制を構築し、脱炭素社会の実現に向けて2022年4月に連携協定を締結した。本学では、次世代発電・蓄電技術の確立を通じた、再エネ100%電力の普及や、電力分野におけるCO₂排出実質ゼロを目指した取組みを進めていく。



③北九州市エコタウンの活用

北九州市エコタウン内に実証研究施設としてグリーンマテリアル研究センター、社会ロボット具現化センターを設置し、実証試験施設として低炭素化社会に向けたゼロ・カーボンへの取組みを進め、新たな産業づくりに向けた技術の発信をしている。



2. 地域連携における課題

プロジェクト以外での連携

国家プロジェクトに応募する際等は、双方前向きに検討ができるが、何かきっかけがない中では発展し辛い状況である。大学と自治体が連携した取り組みを推進することが双方にとって重要であることを見出していくことが必要となる。

ニーズの把握

地域連携においては、地域社会の求めるニーズについて把握する必要があるが、タイムリーに情報が収集できる体制が十分に整っていない。

課題解決

課題は共有できていても、実行するまでのハードルが超えられず、実現には至らない場合がある。

SDGsはテーマが広いため、活動が広範囲になり、明確な目標を見失いがちになるため、ある程度ターゲットを絞ることも必要

工業系単科大学のために、人文系の研究者との連携が希薄であるために地域社会の課題解決に向けた視点が工学的視点に偏る傾向にある

3. その他特徴的な取り組み

毎年開催の国際シンポジウムSAES（海外協定校マレーシアプトラ大学との連携）



海外拠点MSSC（マレーシア・スーパーサテライトキャンパス）

未来思考キャンパス構想
（無人店舗 con-tech）



4. 地域ゼロカーボンワーキンググループに期待すること、幹事機関・事務局へのリクエスト
様々な地域の事例や課題を共有し合い、地域と大学の取組が推進されるように議論ができる場となること。

5. 地域ゼロカーボンワーキンググループへの意気込み・積極的な一言
工業系大学としての知見を活かし、WGの発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。
本学のSDGs取り組みの外部発信を心がけたい